

体育科学習指導案

指導者 大阪市立高殿南小学校 水町 知里
佐藤 信子

1. 日 時 令和7年 6月11日(水) 第5時限(13:50~14:35)

2. 学年・組 第4学年1組 在籍22名

3. 場 所 講堂

4. 単 元 表現運動「進め! ジャングルたんけん」

5. 目 標

- ・ 表現の行い方を知るとともに、題材「ジャングル探検」の主な特徴を捉え、表したい感じをひと流れの動きで踊ることができるようにする。【知識及び技能】
- ・ 自己の能力に適した課題を見付け、題材の特徴を捉えた踊り方や交流の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・ 表現に進んで取り組み、誰とでも仲よく踊ったり、友達の動きや考えを認めたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

6. 指導に当たって

(1) 児童観

本学級の児童は、休み時間になると、運動場で鬼ごっこやボール遊びをして、汗をかいて戻ってくる姿が多く見られる。その一方で、できれば教室で遊びたい、ゆっくりしたいと考えている児童も少なからずいる。表現運動について、児童は今までに、運動会で「リズム運動」としてダンスを経験してきている。その中で最後のポーズを自分で考えたり、少人数のグループで動きを考えたりした経験がある程度であり、本当の意味で「表現運動」に取り組んだ経験が少ないと言える。4年生で表現運動を学習するに当たって、児童の体育科の学習や表現運動に対する意識調査を行った。結果は以下の通りである。

① 体育科の学習は好きですか。

あてはまる 17	だいたいあてはまる 5	あまりあてはまらない 0	あてはまらない 0
----------	-------------	--------------	-----------

② 表現運動は好きですか。

あてはまる 12	だいたいあてはまる 9	あまりあてはまらない 0	あてはまらない 1
----------	-------------	--------------	-----------

③ 友達とグループで運動するのは好きですか。

あてはまる 19	だいたいあてはまる 3	あまりあてはまらない 0	あてはまらない 0
----------	-------------	--------------	-----------

④ 友達とグループで教え合ったり、話し合ったりすることは勉強になると感じますか。

あてはまる 19	だいたいあてはまる 3	あまりあてはまらない 0	あてはまらない 0
----------	-------------	--------------	-----------

⑤ 表現運動は楽しみですか。

あてはまる 13	だいたいあてはまる 9	あまりあてはまらない 0	あてはまらない 0
----------	-------------	--------------	-----------

体育科の学習を「好き」と肯定的に捉える児童は22人中22人(100%)であったが、表現運動となると21人(95%)で「あてはまらない」と答えた児童が1人いた。前述の「体育科の学習は好きですか」に対して「だいたいあてはまる」と答えた理由に「少し苦手なものがあるから」とあり、「表現運動は好きです

か」に対して「あてはまらない」と答えた理由にも同様に「苦手だから」と挙げている。また、他の質問に対して肯定的に捉える児童は22人(100%)であり、今までの体育科の学習が児童に楽しい経験として積み重ねられていることがうかがえる。また、③④のグループで学習すること、⑤の表現運動に対しての肯定的な理由には、次のようなものがあった。

③④について肯定的な捉え方をする児童の理由	⑤について肯定的な捉え方をする児童の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・みんなとすると難しくなるけど、一人より盛り上がって楽しいから。 ・みんなでするとできる運動が増えるから。 ・自分で気付かなかったことが分かって楽しいから。 ・コツややり方が知れるから。 ・意見を出し合って解決できるから。 ・一つになれるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動きが楽しそうだから。 ・わくわくするから。 ・いろいろなことを想像して、自分の表現力を自由に発揮できるから。 ・みんなの演技を見たり、自分の演技を見せたりすることができるから。

これらの実態から、体育科の学習や表現運動に苦手意識がある児童は、心理的な理由で「恥ずかしい」とか、身体的な理由で「どのように動いてよいか分からない」等と不安をもっていることが考えられる。そこで、心身ともに開放できる運動を取り入れたり、グループや全体で表現するときに、指導者や友達の真似をしてよいことを伝えたりして、適切な言葉かけや支援をすることが必要であると考ええる。また、表現活動を楽しみにしている児童の「やってみよう」と挑戦する態度を生かし、児童の自ら伸びる力を促進しながら、グループで表現運動ができる達成感や喜びを味わうことのできる学習の構築が必要になると思われる。

(2) 教材観(運動の特性)

表現運動は、自己の心身を解き放して、イメージやリズムの世界に没入してなりきって踊ったり、互いのよさを生かし合って友達と交流して踊ったりする楽しさを味わえるものである。表現運動は、ゴールフリー学習(目標探究型学習)とも言われ、友達と試行錯誤しながら探究するプロセスを大切にしたい学習であることから、運動が苦手だと感じている児童にとっても楽しく親しみやすい領域である。中学年の「表現」は、楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、題材の特徴を捉えた多様な感じの表現を通して、即興的に表現する力、友達と豊かに関わり合うコミュニケーション力等を培えるようにすることが大切になる。そうして、高学年の学習へとつなげていきたい。

本単元は、日常では味わえない空想の世界観を身近に感じられる題材である。空想の世界に実際に会うことは難しいが、映像や本などで目にしたことがある児童も多く、身近で親しみやすく、多様な動きを身に付けることのできる題材である。

(3) 指導観(学習指導と評価の在り方)

本単元は「題材の特徴や感じを捉えて、表したい感じを中心に誇張したり変化を付けたりして、ひと

流れの動きにして即興的に踊る力の育成」を目指していく。そのため、「ジャングル」という児童にとってわくわくする題材を設定した。児童が表現運動の楽しさや喜びを感じ、主体的に学習に取り組めるように以下の取組を行う。

「はじめ」の段階では、オリエンテーションを行い、学習のねらいや方法を知り、学習の見通しをもつことができるようにする。本単元で扱う題材「ジャングル」のイメージを広げるためにイメージマップ（題材に対するイメージを言葉で表したもの）を作成する。また、児童が表現することを抵抗感なく取り組めるように、心と体をほぐす運動やスモールステップ（様々なよい動きを経験できる場）を行う場を第2時に設定する。まずは、「よい動きを経験したり知ったりすること」を目標に学習を進める。ここでは、一人で行う活動から始め、少しずつ人数を増やし、友達と関わり合う活動を段階的に取り入れながら心と体を解放できるようにする。この活動を行う際には、表現運動をよりよくするための四つのポイントを意図的に取り入れ、学習を進めていく。①空間（方向や場の使い方の工夫）②体（ねじる、回る、転がる、這う、跳ぶ）③リズム（素早く動く、急に止まる、ゆっくりスローモーションで動く）④人間関係（離れる、集まる、反対の動き、合わせる、ずらす）である。活動の中で児童が見付けた動きを色分けしたカードに記入し、ホワイトボードに掲示することで、四つのポイントをいつでも全体で共有できるようにする。

「なか」の段階では、児童の多様な見方や考え方を育むために、まず、その時間に身に付けさせたい動きにつながるような運動を、授業の導入時のスモールステップで展開する。ジャングル特有の多様な動きを身に付けるために、指導者のお話の中に、多様な場面や急変する場面等を設定する。第3時では、三、四人組で踊り、上記の②体③リズムの工夫を、第4時では五、六人組で踊るようにすることで、①空間④人間関係の工夫を意識的に考えることができるようにする。さらに、授業の中心的な活動として「イメージかるた」をめくって、そこに書かれている題材を即興的に表現する活動を取り入れる。この活動では、「友達のよいところを見付けて自分の動きに生かすこと」、「自分の考えたことを友達に伝えること」等を取り入れることで、学習目標に迫れるようにする。

「まとめ」の段階では、今までの学習の成果を発表する場を設定する。その際、友達のよいところの交流を大切にして授業を行う。今まで学習してきた「ひと流れの動き」を生かした発表会になるようにする。また、表したい感じを中心に「はじめ」と「おわり」を付けた動きにして踊るようにする。友達のよいところの交流については、第4時までペアグループで見合ってきたことを経て、発表会では、1グループずつ全体の前で発表することとする。発表するグループは事前に見てほしいポイントを全体に伝えることで、見ている人に自分の表現したい思いが伝わるようにする。発表後は、それぞれが考えたことを友達に伝える交流の場を設けることで、踊る楽しさや見る楽しさを感じられるようにする。

評価については、毎時間、評価規準による観点別の評価を行う。観察による評価は、各時間に重点的に評価する項目を決めて行う。また、学習カードでその時間に楽しかったことや友達との関わりで気付いたことや、自分の中で工夫できたことを書き、一人一人の思いを大切にしながら授業を進めていく。

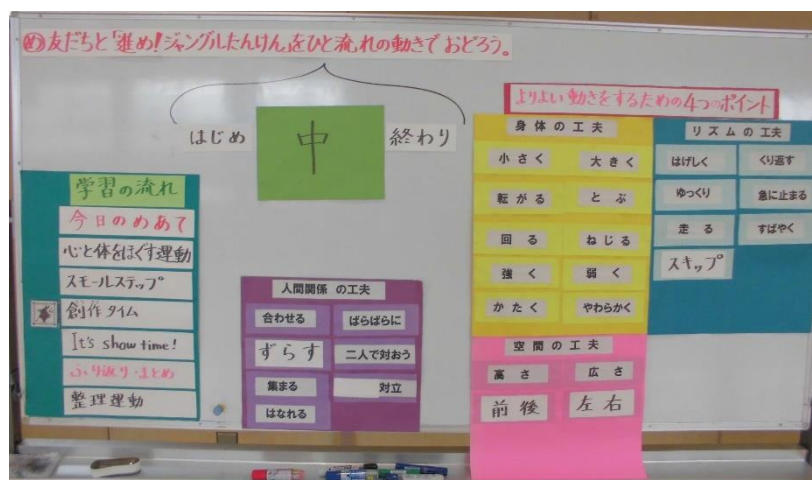
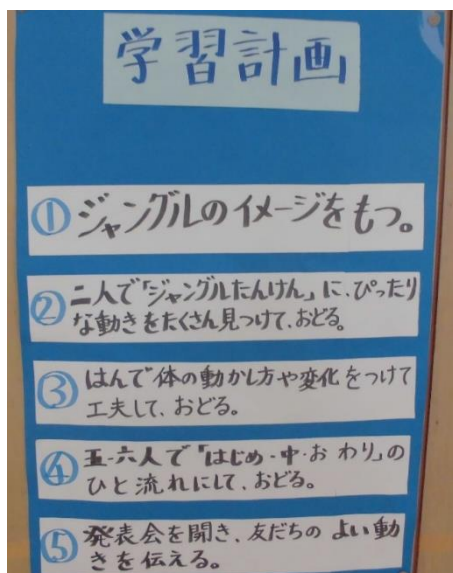
（4）表現運動の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「表現」「リズムダンス」の運	・自己の能力に適した課題を	・運動に進んで取り組み、誰と

<p>動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、表したい感じを表現したりリズムに乗ったりして踊ることができる。</p>	<p>見付け、題材やリズムの特徴を捉えた踊り方や交流の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えている。</p>	<p>でも仲よく踊ったり、友達の動きや考えを認めたり、場の安全に気を付けたりしている。</p>
---	--	---

(5) 表現の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・身近な生活などの題材からその主な特徴を捉え、表したい感じをひと流れの動きで即興的に踊ることができる。</p>	<p>・自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決のための活動を選んでいる。</p> <p>・課題解決のために考えていたことを友達に伝えている。</p>	<p>・表したい感じをひと流れの動きで踊る運動に進んで取り組んでいる。</p> <p>・誰とでも仲よくしている。</p> <p>・場の設定や用具の片付けを、友達と一緒にしている。</p> <p>・友達の動きや楽しく踊るための友達の考えを認めている。</p> <p>・友達とぶつからないように周りの安全を確かめて踊っている。</p>



7. 学習指導・評価計画 4 年「進め！ジャングルたんけん」 全5時間

過程 時		はじめ		なか		まとめ
		1	2	3	④	5
学習のねらいと活動	学習のねらいや進め方を知り、単元全体の見通しをもつ。	学習のねらいや進め方を知る。 1. 学習のねらいや進め方を知る。 2. バと体をほぐす運動をする。 3. 「ジャングル」にはどのようなものがあるかを調べる。 4. 「ジャングル」についてイメージマップを作成する。 5. イメージマップをもとに、指導者のお話を聞いてみる。 6. 学習を振り返り、本時のまとめをする。	表現運動の楽しさを感じたり、友達と関わり合う楽しさを知ったりする。 1. バと体をほぐす運動をする。 2. 本時のめあてや学習の流れを確認する。 3. スモールステップに取り組む。 ・なりきり新聞紙 ・だるまさんがころんだ ・指導者のお話	体の動かし方を理解して、体を大きく動かしたり変化を付けたりする方法に気付くことができる。 1. バと体をほぐす運動をする。 2. 本時のめあてや学習の流れを確認する。 3. スモールステップに取り組み、全身を使って大きく動いたり変化を付けたりする方法に気付く。 ・指導者のお話 ・イメージかるた 4. 創作タイムに取り組み、3、4人グループで即興的に踊る。 5. It's show time をペアグループで取り組み、互いの動きを見せ合い、よかったところを伝え合う。 6. 学習を振り返り、本時のまとめをする。 7. 整理運動をする。	友達と関わり合いながら、ひと流れの動きにして即興的に踊ることができる。 1. バと体をほぐす運動をする。(5分) 2. 本時のめあてや学習の流れを確認する。(1分) 3. スモールステップに取り組み、ひと流れの動きをする方法に気付く。(10分) ・指導者のお話 ・イメージかるた 4. 創作タイムに取り組み、5、6人グループで即興的に踊る。(15分) 5. It's show time をペアグループで取り組み、互いの動きを見せ合い、よかったところを伝え合う。(7分) 6. 学習を振り返り、本時のまとめをする。(5分) 7. 整理運動をする。(2分)	発表会を開き、学習の成果を認め合うことができる。 1. バと体をほぐす運動をする。 2. 本時のめあてや学習の流れを確認する。 3. 発表会に向けて仕上げる練習を行う。 4. 発表会を行う。 ・自分たちの踊りで工夫したところなどを発表する。 ・学級全体で印象に残った動きやよかった動きなどを共有する。 5. 学習を振り返り、単元のまとめをする。 6. 整理運動をする。
	指導者の働きかけ	○単元のねらいを理解できるようにし、1単位時間の学習の進め方や単元全体の見通しをもつことができるようにする。 ○友達と体を動かす楽しさを味わえるように、バと体をほぐす運動を行う。 ○スモールステップを行うことで、大胆な動きやピタッと止まる等の動き方ができるようにする。 ○ジャングルのイメージを広げ、これからの学習に興味関心をもてるようにする。 ○学習カード等の使い方を理解し、自分の力に応じためあてをもつことができるようにする。	○スモールステップを行う際には、本時の学習で身に付けさせたい動きを取り入れたものにする。 ○イメージかるたには、身に付けさせたい動きを取り入れたものにする。 ○創作タイムでは、「はじめ」「なか」「おわり」「おわり」を意識し、ひと流れの動きになるように伝える。その際、体全体を使って大きく動いたり、変化を付けたり等の工夫を入れるように助言する。 ○即興的に踊ることが難しい児童には、指導者が一緒に踊ったり、友達の動きを真似たりしてよいことを伝える。 ○It's show time では、自分たちの見てほしいところを事前に伝えることで、見る側も視点を持ち、意見交流が活発になるようにする。 ○全体に動きを紹介するときには、よい動きに気付くように視点を示してから全体の場で紹介する。	○前時までのアドバンスや振り返りをして、楽しく踊ることができるようになる。 ○発表時には、互いの学習の成果を認め合うことができるようにする。 ○単元全体を通しての学習のまとめができるようにする。	○前時までのアドバンスや振り返りをして、楽しく踊ることができるようになる。 ○発表時には、互いの学習の成果を認め合うことができるようにする。 ○単元全体を通しての学習のまとめができるようにする。	発表会を開き、学習の成果を認め合うことができる。 1. バと体をほぐす運動をする。 2. 本時のめあてや学習の流れを確認する。 3. 発表会に向けて仕上げる練習を行う。 4. 発表会を行う。 ・自分たちの踊りで工夫したところなどを発表する。 ・学級全体で印象に残った動きやよかった動きなどを共有する。 5. 学習を振り返り、単元のまとめをする。 6. 整理運動をする。
具体的な評価規準の一例	知識 聴 解 思考・判 断 表 現 学 習 意 欲 学 習 意 識 学 習 意 識	知識 聴 解 思考・判 断 表 現 学 習 意 欲 学 習 意 識	知識 聴 解 思考・判 断 表 現 学 習 意 欲 学 習 意 識	知識 聴 解 思考・判 断 表 現 学 習 意 欲 学 習 意 識	知識 聴 解 思考・判 断 表 現 学 習 意 欲 学 習 意 識	知識 聴 解 思考・判 断 表 現 学 習 意 欲 学 習 意 識

8. 本時の学習（本時 4／5）

（1）本時の目標

◎題材の特徴や感じを捉え、表したい感じをひと流れの動きで踊ることができる。 【知識及び技能】

- ・ 題材の特徴を捉えた動きを見付けたり、友達のよい動きを伝えたりすることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・ 誰とでも仲よく踊ったり、友達とぶつからないように周りの安全に気を付けたりすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

(2) 本時の展開

	学習活動	指導者の働きかけ	評価	準備物
はじめ	1. 心と体をほぐす運動をする。	○楽しみながら運動に取り組み、心と体を解放できるように、ゆったりとした曲や軽快なリズムの曲をかける。	・誰とでも仲よく踊っている。 【態度】 ・安全に気を付けている。 【態度】	スピーカー パソコン タンブリン
	2. 本時のめあてや学習の流れを確認する。	○掲示物を活用して、本時のめあてや学習の流れをつかむことができるようにする。		ホワイトボード
	友だちと『進め!ジャングルたんけん』を、ひと流れの動きで、工夫しておどろう。			



なか	<p>3. スモールステップに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者のお話に合わせて踊る。 ・ イメージかるたをめくって、即興的に踊る。 	<p>○言葉に緩急や強弱をつけながら、踊りが急変する展開のお話をする。</p> <p>○児童の動きを肯定的に認めることで、表現の世界に没入できるようにする。</p> <p>○緩急や強弱を表現している動きを全体に紹介したり、みんなで真似たりすることで、その動きのよさに気付くことができるようにする。</p>	<p>・特徴や感じを捉えて踊ることができる。【知識・技能】</p>	イメージかるた
	<p>4. 創作タイムに取り組む。</p>	<p>○イメージかるたの中から、一番表したいことを中心にし、「はじめ」と「おわり」を工夫して考え、ひとまとまりの動きにして踊るように助言する。</p> <p>○困っているグループには、個別に声かけをして、動き方を支援する。</p>	<p>・表したい感じをひと流れの動きで踊ることができる。【知識・技能】</p>	スピーカー パソコン
	<p>5. It's show time で互いの動きを見合い、よいところを伝え合う。</p>	<p>○互いに見合うときは、見てほしいポイントを先に伝えておくようにし、その動きを重点的に見てよかったところを伝え合うように助言する。</p>	<p>・友達のよい動きを見付けて伝えている。【思考・判断・表現】</p>	スピーカー パソコン
まとめ	<p>6. 学習を振り返り、本時のまとめをする。</p> <p>7. 整理運動をする。</p>	<p>○できるようになったことや楽しかったこと等を発表できるようにする。</p>		スピーカー パソコン

9. 学習の場

舞 台

A グループ(6人)

B グループ(6人)

D グループ(5人)

C グループ(5人)

ホワイトボード

10. 資料

表現運動 学習カード

「進め! ジャングルたんけん」 4年 1組 グループ 名前

動きをかんたんな言葉や図で表してみよう。

はじめ

一番表したいところ

おわり

--	--	--

今日の自分のめあて

★学習のふりかえり 月 日 ()	よくできた◎ できた○ もう少し△
自分のめあてが達成できた。	
表したいことを中心に、変化のある動きをつなげてメリハリのある動きをすることができた。	
動きをまねしたり、考えたりして、友達のよいところを見つけて、伝えることができた。	
楽しく運動に取り組んだり、友達と仲よくしたりすることができた。	

今日の感想と次にかんがりたいこと

11. 実践を終えて(成果と課題)

(1) 児童が主体的に運動に取り組むための手立ての工夫

①児童の実態に適した教材の設定と単元を見通した指導計画の作成

・事前に体育科や『表現運動』に対する意識調査を行った。その結果から、ほとんどの児童が体育科の学習や表現運動について、楽しみにし肯定的に感じていることが分かった。しかし、ほんの一部ではあるが「表現運動が苦手と思う」、「やったことがない」、「緊張する」という思いが潜んでいる実態も見えてきた。つまり、表現運動の経験がないことから、どうしてよいのかが分からないために、緊張し、苦手と感ずるのではないかと考えた。そこで、心身を解放する『体をほぐす運動』やいろいろな動きの基本となる『スモールステップ』を踏まえて「楽しい」、「こんな動きもできた」という新たな発見との出会いを積み上げていく学習の計画を立てた。

・表現するテーマを「ジャングル」に限定したことは、児童がイメージをもって表現運動に没入することができやすく、4年生の実態として適していた。生活の中で既に知っている情報と、自ら本や学習者用端末で調べて新たに知った情報から、さらに想像するという過程を経ることで、決まりきった世界観よりも、わくわくとした楽しい世界観が広がっていった。

・毎時間の指導内容を綿密に計画し、1時間ごとに
内容が深まるようにした。それに伴い「めあて」を明確化することにより、児童は新たな課題に挑戦しながらその都度、思考を深めることができた。表現運動における『よりよい動きをするための四つのポイント』を「身体の工夫」、「リズムの工夫」、「空間の工夫」、「人間関係の工夫」の順で段階的に意識できるように示すことで、児童の動きに広がりが見られた。その成果を学習カードに毎時間記録し、「振り返り」では、単元目標の三つを常に自己評価できるようにした。さらに、自分の課題を見付けカードに記すことで、毎時間、目標をもって取り組むことができた。児童一人一人の気づきや、つまづきに対して、指導者は個に応じた支援や指導を積み重ねることで、個々の学びに向かおうとする力を育み、主体的に活動する素地を養うことができた。



②体を動かす楽しさが実感できる場の設定

・準備運動や整理運動で心と体を解放する場を設けた。その際、体をゆったりと楽しみながら動かせるように、のびやかな曲や軽快な曲をつなげて流した。児童が安心して運動でき、真似ることができるよう大きな輪の隊形をつくった。そして、指導者が、模範となる大きな動きや、柔らかな動き、リズムカルな動き等を見せることで、児童は体のみならず心も自由に解放されていった。

・運動の場の形態を、学び合いのよさが実感できるように場面ごとに工夫して設定した。集合して

「めあて」の確認や、学習の「まとめ」をするときも輪になることで、互いの顔が見て取れるのでしっかりと話を聞き合うことができた。また、グループ活動の際には、講堂を4分割した空間にグループの活動



拠点を置くことで、そのスペースを十分に生かして運動することができた。「イメージかるた」に取り組む際には、「生活の中でありそうな出来事」のカードを黄緑色の色画用紙、「わくわくする・びっくりするような非日常的な出来事」のカードを緑色の色画用紙を台紙とし、交互に児童が手に取れるようにした。そうすることによって、児童はグループで移動しながら、日常・非日常と交互に様々な場面に出くわし、表現することができる仕組みとなる。偶然的なくじ引き要素に見えるが、指導者による意図的な場面の出会わせ方であり、かるたを拾いながら自然と講堂を一周して表現することにもなって、場を大きく使う仕掛けとした。

・『スモールステップ』では、指導者のジャンглの「お話」や「イメージかるた」に緩急や強弱を付けたり、踊りが急変する展開を入れたりすることで、児童はその世界に没入して、即興的に踊ることができた。これらは、次の『創作タイム』に向け、イメージを膨らませることに有効で、学習課題である「ひと流れの動きをつくる」ために、それぞれがアイデアをもち寄り、めあてに沿う動きを見いだすことにつながった。グループで一丸となって、和気あいあいとした雰囲気の中、楽しく踊ることができた。



(2) 教え合い、高め合う児童同士の協働学習の工夫

① ペアやグループ活動・全体活動による学習形態の工夫

・始めの一人で自由に動く活動は、心と体の解放となり、友達の自由な発想を真似ることもでき、大切な活動時間であった。次にペア活動をするのは、一人ではできなかった動きができ、心地よさを知ることとなる。さらに、三、四人のグループで活動することで、『空間の工夫』へと動きの広がりが出てくる。そして、五、六人のグループにすると、『人間関係の工夫』を試行錯誤することになり、協働の幅が広がることにつながる。

・「心と体をほぐす運動」や「スモールステップ」の時間に『よりよい動きをするための四つのポイント』を児童の動きから見付け、全体に広げることで、真似たり、さらに工夫を重ねたりして、全員が活気に溢れる学習の場となった。

② 対話的な活動を通しての学び合い

・動きの基となるジャンглのイメージやジャンгл内の場面設定が多様化されていたこと、表現運動で身に付けたい動きの具体化があったことから、グループ内で目指す方向がはっきりとし、そのことが活発な交流活動を生み出していた。児童は、互いの考えや動きを受け止め・受け入れながら、よりよい

動きを探っていった。こうして、児童は、思考と動きを連動しながら、グループ内の結束を強め、心の一体感も体得した。

・「It's show time」では、互いのグループの踊りを見合うことで、それぞれのよさに気付いたり、「もっとこうしたら表現が大きくなること」や「動きにメリハリをつけるとよくなることをアドバイスしたりして、互いによりよいものを目指そうとする、グループ間の高め合いの場となった。



(3)「教えること」と「気付かせること」を明確にした指導者の働きかけの工夫

①運動領域に即した適切な指導

・第1時で本や学習者用端末を用いてジャングルについて調べ、イメージマップを作成した。その際、漠然とジャングルを想像するのではなく、「生き物」、「トラブル発生」、「存在する物」、「自然」、「一日の生活」等と思考を絞ってイメージを膨らませることにした。動きや音等も思いつくままに次々とマップに書き込むことでイメージを言葉で表現することができた。加えて、ジャングルの一場面をかるたの絵として表し、イメージをさらに映像化できるようにした。第1時から大盛り上がりの児童は、次時への期待がさらに膨らんでいった。第2時では、『スモールステップ』の中で「なりきり新聞紙」に取り組んだ。この運動で、新聞紙の柔らかさ・軽さ・折られる・丸まる・伸びる・ちぎれる等の動きを表現した。本単元の動きの基礎を築く上で大変重要な部分となり、児童はイメージと動きの双方を具現化する経験ができた。また、恥ずかしさや、動き方が分からないといった思いをもつ児童に対して、それらを払拭できるように、心と体をほぐす運動を毎時間取り入れた。こうした学びを積み重ねることで、児童全員が、表現活動に親しみ、それを楽しむ心と技能を身に付けることができた。

・第3時から、特に児童に教えることとして「誇張」（全身を使って、動きを強調すること）、「連続」（質感やリズムの違う動きをつなげて途切れることなく踊ること）や「変化とメリハリ」（ハプニング、急変、動きに強弱を付けること）を意識して指導に当たった。その結果、児童が、「頭や、へその位置を動かすこと」、「動きを繰り返して踊ること」や「急に止まる、広がる、縮まる」の動きの多様化に気付くことへとつながっていった。

②児童の気付きを生かした主体的な学び

・『創作タイム』では、指導者が各グループを見て回る際、本時のねらいであった「人間関係の工夫」のカードを意図的に提示して、気付きを促した。そして、児童は五、六人だからこそできる「集まる」、「離れる」、「合わせる」、「ずらす」等を取り入れることへと踊りが発展し、思考や動きの広がり・高まりにつながっていくことができた。児童は一層楽しくなり、より工夫を凝らそうと夢中になって活動していった。



(4)今後の課題

- 表現運動は、低・中・高学年それぞれに運動の特性があり、発達段階に応じた適切な活動を積み重ねることが大切である。
- 場に応じた音楽が、児童の意欲や動きの高まりにつながっていたことから、今後も選曲や効果的な使い方を探っていく。

○ 実践後、アンケートを行った結果は以下の通りである。

① 体育科の学習は好きですか。

あてはまる 18	だいたいあてはまる 4	あまりあてはまらない 0	あてはまらない 0
----------	-------------	--------------	-----------

② 表現運動は好きですか。

あてはまる 19	だいたいあてはまる 3	あまりあてはまらない 0	あてはまらない 0
----------	-------------	--------------	-----------

③ 表現運動は楽しかったですか。

あてはまる 21	だいたいあてはまる 1	あまりあてはまらない 0	あてはまらない 0
----------	-------------	--------------	-----------

学習後、「体育科の学習は好きですか」については、「あてはまる」と最も肯定的に回答する児童が一人増え「チームワークが築けたり、自分の技術を高められたりできたから」と理由に挙げている。また、「表現運動は好きですか」については19人(86%)、「表現運動は楽しかったですか」については、21人(95%)が「あてはまる」と回答した。学習前は苦手だと思って「好きではない」と答えていた児童は、学習後には、「表現がうまくなった」と自己評価し、表現運動を「好き」だと答える変化を見せた。そして、表現運動が楽しかったという意見の中には「いっぱい動いたり、先生の真似をしたりしたこと」、「自分の表現力を感じたり、友達のことを真似していろいろな動きができるようになったりしたこと」とあり、児童が、できた喜びを味わえたと実感できた。この表現力・想像力・友達と練り上げていく力は、今後、他教科や生活全般においても生かせるように支援・指導を続けていく。



第1時 学習カード

表現運動 学習カード・1

「進め! ジャングルたんけん」4年1組Cグループ

今日の自分のめあて 仲よく、安全に気をつけて「進め! ジャングルたんけん」をおどろう。

★学習のふりかえり	よくできた できた もう少し
6月3日(火) 自分のめあてが達成できた。	◎
大きな動きやピタッと止まるような変化のある動きをすることができた。	◎
友達の良いところを見つけて、伝えることができた。	◎
楽しく運動に取り組み、友達と仲よくしたりすることができた。	◎

工夫したジャングルの場面・おどし
 ・体はじわたりるときにめっちゃつらつらしてけつになるようにして動いた。
 ・体でジャンプでポーズのときに大きくポーズができた。
 いい動きができたね。

今日の学習で分かったこと・次にがんばりたいこと
 ・次はまたまたいろいろなところをはい動きたい。

第2時 学習カード

表現運動 学習カード・2

「進め! ジャングルたんけん」4年1組Cグループ

今日の自分のめあて 友達の良いところをもっと伝える。体のいろいろなところを動かす。

★学習のふりかえり	よくできた できた もう少し
6月4日(水) 自分のめあてが達成できた。	◎
全身を使って、大げさに動くことができた。	◎
友達の良いところを見つけて、伝えることができた。	◎
楽しく運動に取り組み、友達と仲よくしたりすることができた。	◎

工夫したジャングルの場面・おどし
 ・松尾さん空間を広く使った。
 ・松尾さんかわせることができた。
 ・どうぶつな動きをやらすことができた。

今日の学習で分かったこと・次にがんばりたいこと
 ・ポーズをすくまえてまわるジャンけんを5つの色に順番に使って。たくさんのおもてなし! 学んだりしたね。だから いい動き・おどし だったよ!! カス!

第3時 学習カード

表現運動 学習カード・3

「進め! ジャングルたんけん」4年1組Cグループ 名1

今日の自分のめあて ハの位置を爪さよう。

★学習のふりかえり	よくできた できた もう少し
6月6日(金) 自分のめあてが達成できた。	◎
全身を使ったり、変化をつけたりして、おどることができた。	◎
友達の良いところを見つけて、伝えることができた。	◎
楽しく運動に取り組み、友達と仲よくしたりすることができた。	◎

工夫したジャングルの場面・おどし
 ハの位置も横に動かした。

今日の学習で分かったこと・次にがんばりたいこと
 ・シンクロさせたり、少しずつずらしてやる。かっよさそう!! かんぱて!!

第5時 学習カード

表現運動 学習カード

「進め! ジャングルたんけん」4年1組Dグループ

動きをかんたんな言葉や図で表してみよう。

はじめ 一番表したいところ おわり

エエー、木をわって火を焚き、火があたかい。

今日の自分のめあて リズムの工夫をカンパロー。

★学習のふりかえり	よくできた できた もう少し
6月7日(火) 自分のめあてが達成できた。	◎
1番表したいイメージを工夫しておどることができた。	◎
動きをまねたり、考えたりして、友達の良いところを見つけて、伝えることができた。	◎
楽しく運動に取り組み、友達と仲よくしたりすることができた。	◎

今日の感想や表現運動でできるようになったこと
 ・5~6人でしてやる動きもあり楽しかった。
 ・いろいろな、とこをまわすことができた。

表現運動 学習カード

「進め! ジャングルたんけん」4年1組Eグループ 名1

動きをかんたんな言葉や図で表してみよう。

はじめ 一番表したいところ おわり

バクをとりあて、おかしな動きをしていく。

今日の自分のめあて 大人をたからでる動きをやる。

★学習のふりかえり	よくできた できた もう少し
6月7日(火) 自分のめあてが達成できた。	◎
1番表したいイメージを工夫しておどることができた。	◎
動きをまねたり、考えたりして、友達の良いところを見つけて、伝えることができた。	◎
楽しく運動に取り組み、友達と仲よくしたりすることができた。	◎

今日の感想や表現運動でできるようになったこと
 ・前は2人でとんでいくやり方だったが、今日はみんなととんでいった。2人のときより大きく空気を飛ばした。みんなが合せて、みんなが楽しかった。